

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 125

事業名	都志・鳥飼線運行費補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	市長公室			款	総務費・2款
電話	0799 - 43 - 5002			項	総務管理費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	まちづくり推進費・6目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	子どもを産みたい_育てたいまち(子育て)			
	施策目標	すべての人が安心してまちに出て、日常生活や地域での交流が行える環境をつくる			
該当する事業について「 」を選択		施策的事业	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に)	
		松帆・港地区住民。	対象人数(人) 6,796
		意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	
		地域住民の生活交通である路線バス運行を確保することにより、市民が安全で安定した交通手段の提供を受ける。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)	
	淡路交通(株)が運行している都志・鳥飼線について、洲本市と南あわじ市が走行キロ数の按分により運行に係る経費の赤字額を補填している。		
背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)		
	今後の補助については、路線存続の必要性を考慮し、洲本市と協議が必要となる。		
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (淡路交通(株))	
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)		
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	年間乗車人数	指標単位 人			
	指標説明 (指標算出方法等)	乗車人数により、当該事業の利用効率などが計れる。 ただし、上記の乗車人数は洲本市も含んでおり、当市の住民の利用数は把握できていない。				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	-	51,190	51,200	51,200	
	実績値	-	51,190	46,363		
	達成度 (%)	-	100.0	90.6	-	
目標値設定の考え方	少しずつ利用者が減少する中、利用者の現状維持が目標となる。					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	年間乗車人数	指標単位 人			
	指標説明 (指標算出方法等)	乗車人数により、当該事業の利用効率などが計れる。 ただし、上記の乗車人数は洲本市も含んでおり、当市の住民の利用数は把握できていない。				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	-	51,200	51,200	51,200	
	実績値	-	51,190	46,363		
	達成度 (%)	-	100.0	90.6	-	
目標値設定の考え方	少しずつ利用者が減少する中、利用者の現状維持が目標となる。					
資源配分 (インプット)	直接事業費 (千円)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	都志・鳥飼線運行費補助金			1,189	1,327	1,166
	財源 (千円)					
	国					
	県			400	409	400
	起債					
	その他					
	一般財源[A]		0	789	918	766
	人件費(正規職員)[B] (千円)		0	150	151	151
	平均人件費(1日当り)		30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)			10.0	10.0	10.0
	事業量2(事業に要した人数)			0.5	0.5	0.5
年間経費([A]+[B])		0	939	1,069	917	
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)		0.0	0.1	0.2	0.1	
受益者人数(51,190)1人当り経費(千円)		0.0	0.0	0.0	0.0	
経費に関する補足説明						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)	
		%	-	100.0	90.6	-		
(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 現状の利用者数を目標値としているため、達成度が100%となっている。							3	
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)	
	成果向上率	%	-	-	9.4	-		
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 唯一の公共交通でありその有効性は高いが、利用者は年々減少傾向にある。							
							3	
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)	
		千円	-	0.0	0.0	-		
	効率性増減率	%	-	-	25.7	-		
(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 洲本市と南あわじ市が走行キロ数の按分によって補助金負担をしているため、洲本市との協議が必要である。							3	
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低				自己評価 (5点評価)
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 地域住民にとっては、唯一の公共交通機関であり、福祉性も強く、その必要性は高い。							
							4	
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<p>評価グラフ</p>					
	<p>在来線が廃止された場合、コミュニティバス等による代替運行を考える必要があり、現状の補助金事業より経費がかかる。 今後は、洲本市との協議やコミバス(せい太くんバス)の路線延長も検討していく必要がある。</p>							

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>在来線が廃止された場合、現状の補助金事業より経費がかかるコミュニティバス等による代替運行を考える必要があるため、洲本市と共同での補助金負担による路線維持が効率的である。</p> <p>今後、洲本市が補助金負担に難色を示した場合、在来線から撤退する可能性もある。撤退となるとコミバス運行について住民要望が出てくると予想されるため、今後とも、洲本市との協議が不可欠である。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 交通弱者である高齢者の通院、買物や公共施設等へのアクセスが大変困難となり、影響は大である。また、補助金を廃止することは、在来線の廃止につながり、コミバス運行等の代替施策の必要性が高い。	